



超低雑音差動増幅器
LOW NOISE DIFFERENTIAL AMPLIFIER

SA-430F5

取扱説明書

D : 504214 - 1

SA - 430F5

超低雜音差動增幅器

取扱説明書

LOW NOISE DIFFERENTIAL AMPLIFIER

—— 保 証 ——

本製品は、株式会社エヌエフ回路設計ブロックが十分な試験、検査を行って出荷しております。
万一製造上の不備による故障または輸送中の事故などによる故障がありましたら、当社または当社代理店までご連絡ください。

当社または当社代理店からご購入された製品で、正常な使用状態において発生した部品および製造上の不備による故障など、当社の責任に基づく不具合については納入後1年間の保証をいたします。

この保証は、保証期間内に当社または当社代理店にご連絡いただいた場合に、無償修理をお約束するものです。

なお、この保証は日本国内においてのみ有効です。日本国外で使用する場合には、当社または当社代理店にご相談ください。

下記の事項に該当する場合は、保証期間内でも有償となります。

- 取扱説明書に記載されている使用方法、および注意事項に反する取扱いや保管により生じた故障の場合
- お客様による輸送や移動時の落下、衝撃などにより生じた故障、損傷の場合
- お客様により、製品に改造が加えられている場合
- 外部からの異常電圧および本製品に接続されている外部機器の影響による故障の場合
- 火災、地震、水害、落雷、暴動、戦争行為及びその他天災地変などの不可抗力の事故による故障、損傷の場合
- 磁気テープなど消耗品の補充

—— 修理にあたって ——

万一不具合があり、故障と判断された場合、あるいはご不明な点がありましたら、お求めになりました当社または当社代理店にご連絡ください。

ご連絡の際は、型式名（または製品名）、製造番号（SERIAL NUMBER）とできるだけ詳しい症状やご使用の状態をお知らせください。

修理期間はできるだけ短くするよう努力しておりますが、ご購入後5年以上経過している製品の場合は、補修パーツの品切れなどにより、日時を要する場合があります。

また、補修パーツが製造中止の場合、著しい破損がある場合、改造された場合などは修理をお断りすることがありますのであらかじめご了承ください。

目 次

	ページ
1. 概 説	1 - 1
1.1 概 要	1 - 1
1.2 特 長	1 - 1
1.3 定 格	1 - 1
1.3.1 入力部	1 - 1
1.3.2 出力部	1 - 2
1.3.3 増幅部	1 - 3
1.3.4 電源部	1 - 3
1.3.5 一般事項	1 - 3
2. 使用前の準備	2 - 1
2.1 概 要	2 - 1
2.2 開梱と再梱包	2 - 1
2.2.1 開 梱	2 - 1
2.2.2 再梱包	2 - 1
2.3 構 成	2 - 1
2.4 設 置	2 - 2
2.5 電 源	2 - 2
3. 操作方法	3 - 1
3.1 概 要	3 - 1
3.2 正面・背面パネルの説明	3 - 1
3.3 始 動	3 - 2
3.3.1 専用電源SA - 915D1 との接続について	3 - 2
3.3.2 SA - 915D1 以外の電源との接続について	3 - 4
3.3.3 入力の接続および設置について	3 - 4
3.3.4 差動接続時のご注意	3 - 5
3.3.5 片線接地入力での使用について	3 - 5
3.3.6 出力接続について	3 - 6
4. 動作原理	4 - 1
4.1 ブロック図	4 - 1
4.2 入力アンプ	4 - 1
4.3 出力アンプ	4 - 1

	ページ
5. 保 守.....	5 - 1
5.1 概 要.....	5 - 1
5.2 動作点検.....	5 - 2
5.2.1 正相入力の動作点検.....	5 - 2
5.2.2 逆相入力の動作点検.....	5 - 3
5.2.3 差動入力の点検.....	5 - 4
5.2.4 利得および周波数特性の確認.....	5 - 5
5.2.5 消費電流のチェック.....	5 - 5
6. 標準データ.....	6 - 1
6.1 標準データについて.....	6 - 1
6.2 標準データ.....	6 - 1

付図・付表

	ページ
図1-1 外形寸法図	1-4
図1-2 ボトムプレート外形寸法図	1-5
図3-1 SA-915D1 との接続	3-3
図3-2 SA-915D1 以外の電源との接続	3-4
図3-3 正面・背面パネル図	3-7
図4-1 ブロックダイアグラム	4-1
図5-1 正相入力動作確認接続図	5-2
図5-2 正相入出力波形	5-2
図5-3 逆相入力動作確認接続図	5-3
図5-4 逆相入出力波形	5-3
図5-5 差動入力動作確認接続図	5-4
図5-6 CMRR チェック	5-4
図5-7 利得および周波数特性確認接続図	5-4
図6-1 入力換算雑音電圧密度 100Hz~1MHz	6-2
図6-2 雑音指数周波数特性 10MHz~110MHz	6-2
図6-3 電圧利得周波数特性 100Hz~200MHz	6-3
図6-4 電圧利得偏差周波数特性 100kHz~200MHz	6-3
図6-5 入力VSWR周波数特性 100kHz~500MHz	6-3
図6-6 出力VSWR周波数特性 100kHz~500MHz	6-3
図6-7 逆方向伝達利得周波数特性 1MHz~500MHz	6-3
図6-8 同相入力電圧除去比周波数特性 1kHz~100MHz	6-3
表2-1 構成表	2-1

1. 概 説

1.1 概 要

『SA-430F5 超低雑音差動増幅器』は、入力換算雑音電圧密度 $0.35\text{nV}/\sqrt{\text{Hz}}$ 、雑音指数 1.10dB を実現した超低雑音差動増幅器です。超低雑音でありながら広帯域（ $400\text{Hz}\sim 110\text{MHz}$ ）で、 50Ω 負荷に対して200倍の利得が得られます。

また、帯域幅が広いだけでなくオーバシュート、リングングの少ない優れたパルス応答が得られます。

負帰還技術の応用による能動終端回路（特許出願中）により、入力の整合と超低雑音特性の両立を実現した本差動増幅器は、超低雑音特性と同相電圧除去特性の要求される種々のアプリケーションに対して幅広く使用できます。

1.2 特 長

(1) 超低雑音

雑音指数は、 1.10dB typ （ 50Ω 系、 10MHz において）、入力換算雑音電圧密度は、 $0.35\text{nV}/\sqrt{\text{Hz typ}}$ です。

(2) 広帯域

周波数特性は $400\text{Hz}\sim 110\text{MHz}$ 、立ち上がり時間 3.4ns と高速であり、パルス応答も良好です。

(3) 高CMRR

同相入力電圧除去比は、 90dB typ （ 100kHz において）です。

(4) 入力が 50Ω に整合

差動入力インピーダンスは 50Ω で、特性インピーダンス 50Ω の線路に整合します。

(5) 高利得

50Ω 負荷に対して 46dB （200倍）の電圧利得があります。

(6) 高利得安定度

50Ω 信号源に対して利得安定度は、 $\pm 100\text{ppm}/\text{C}$ です。

(7) 入出力SMAコネクタ使用

入出力に高周波特性、シールド特性にすぐれたSMAコネクタの採用により、セミリジッドケーブルによる接続も可能です。

1.3 定 格

1.3.1 入力部

- 入力形式
交流結合、平衡差動入力
SMAコネクタ2個

- 差動入力インピーダンス
50Ω ±5% (100kHzにおいて)

- 同相入力インピーダンス
530Ω typ (100kHzにおいて)

- 最大入力電圧 (増幅器焼損電圧)
差動入力 ±2.0V
同相入力 ±2.0V

- CMRR (入力換算)
80dB以上 (100kHzにおいて)
90dB typ (100kHzにおいて)
80dB typ (10MHzにおいて)

- 入力VSWR
1.2以下 (100kHz~20MHz)
1.5以下 (20MHz~100MHz)

- 入力換算雑音電圧密度 (入力端短絡)
0.45nV/√Hz 以下 (100kHzにおいて)
0.35nV/√Hz typ (10kHz~1MHz)

- 雑音指数 (50Ω系) (HP8970B + HP346Aにて測定)
1.25dB以下 1.10dB typ (10MHzにおいて)
1.75dB以下 1.40dB typ (100MHzにおいて)

1.3.2 出力部

- 出力形式
交流結合、不平衡片線接地出力
SMAコネクタ
- 最大出力電圧
2V_{p-p} (1kHz~20MHz) 負荷抵抗50Ω
- 出力インピーダンス
50Ω ±5% (100kHzにおいて)
- 出力VSWR
1.3以下 (100kHz~100MHz)

1.3.3 増幅部

- 電圧利得
46 ± 0.5dB (100kHzにおいて) 負荷抵抗50Ω
- 電圧利得周波数特性
1kHz~100MHz +0.5、-3dB
400Hz~110MHz typ +0.5、-3dB
- 電圧利得安定度
±100ppm/°C typ
- 逆方向伝達利得
-120dB typ (10MHzにおいて)
-100dB typ (100MHzにおいて)
- 1dB利得圧縮点
+18dBm typ (10MHz~100MHz)
- インターセプトポイント
+28dBm typ (68MHzにおいて)

1.3 定 格

1.3.4 電源部

- 入力形式
貫通コンデンサを通して供給
- 動作電源電圧範囲
 $\pm 15\text{V} \pm 5\%$
- 最大電源電圧（増幅器焼損電圧）
 $\pm 16.5\text{V}$
- 消費電流（無信号時）
+55mA typ +65mA以下
-30mA typ -45mA以下

1.3.5 一般事項

- 外形寸法
 $43(\text{W}) \times 68(\text{H}) \times 28(\text{D})\text{mm}$ （突起物は含まず）
- 質 量
約130g
- 動作温度範囲および動作湿度範囲
 $0 \sim 40^\circ\text{C}$ 、 $10 \sim 90\% \text{RH}$ （結露なきこと）
- 保存温度範囲および保存湿度範囲
 $-10 \sim 50^\circ\text{C}$ 、 $10 \sim 80\% \text{RH}$ （結露なきこと）

特記なき場合は、 $23^\circ\text{C} \pm 5^\circ\text{C}$ 、 $V_s = \pm 15\text{V}$ （専用電源）、負荷抵抗 $50\ \Omega$ 、信号源抵抗 $50\ \Omega$ 。

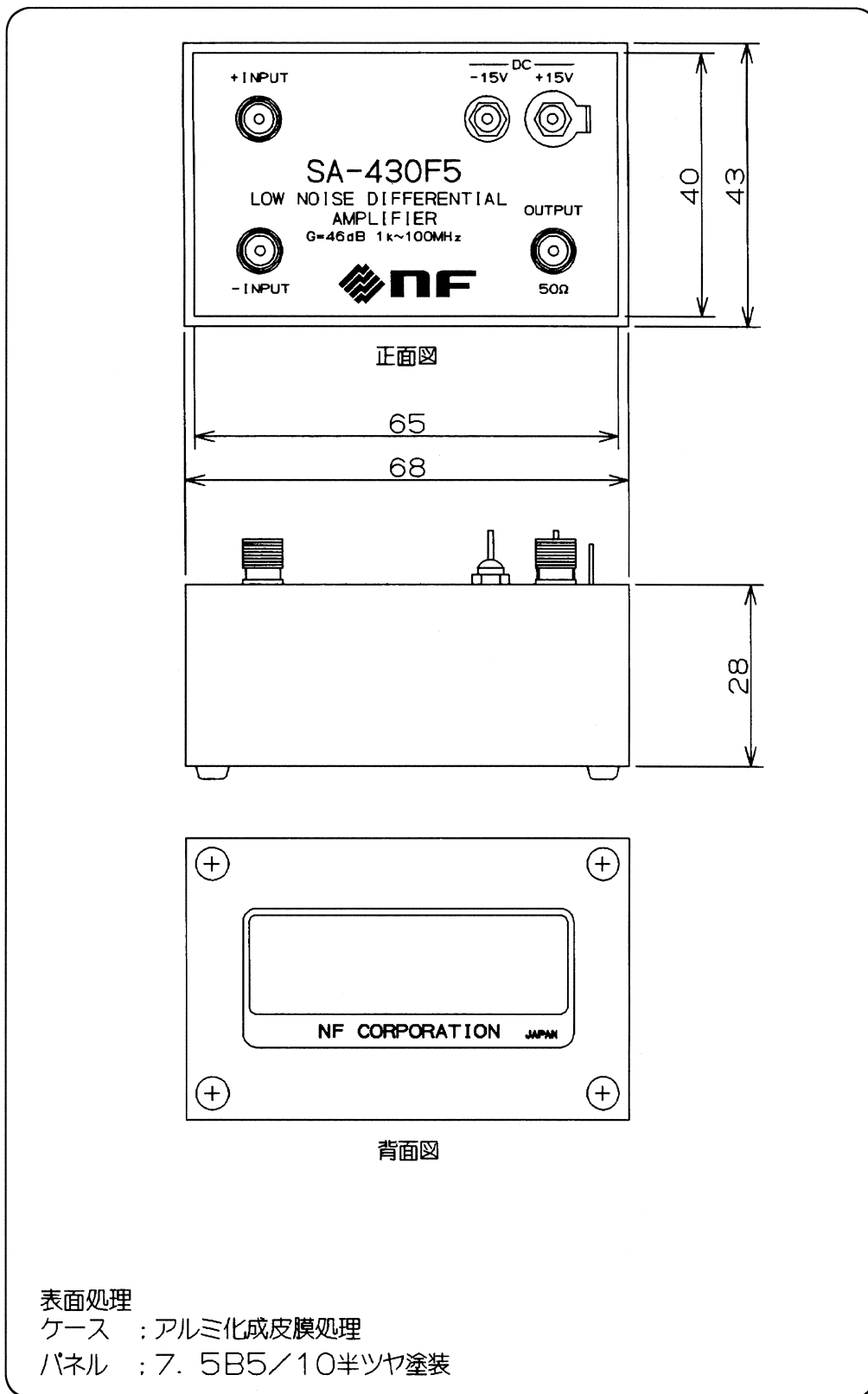


図1-1 外形寸法図

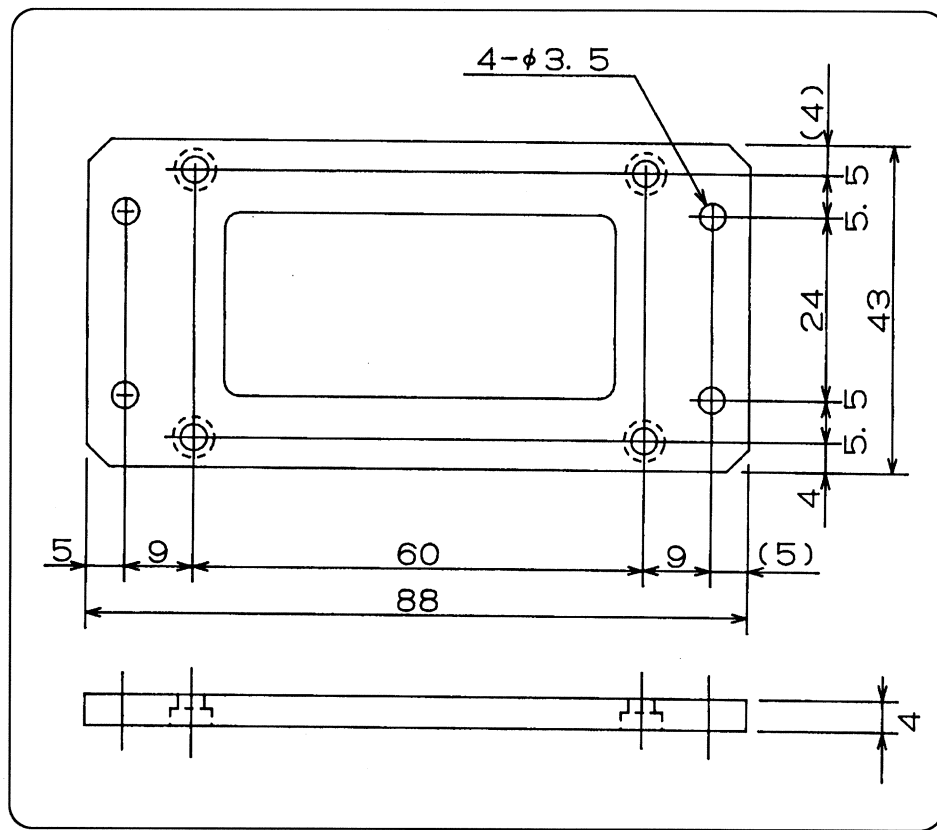


図1-2 ボトムプレート外形寸法図

2. 使用前の準備

2.1 概要

本器をご使用になる前に、下記の項目についてチェックしてください。

特に設置に関しては、機器の寿命、信頼性および安全性に影響しますので十分にご配慮ください。

2.2 開梱と再梱包

2.2.1 開 梱

開梱後は、まず輸送中の事故などによる損傷のないことをお確かめください。発送前に十分注意しておりますが、附属品の員数なども「表2-1 構成表」をご参照のうえ、お調べください。

2.2.2 再梱包

輸送などのために再梱包する場合は、適当な強度と余裕のあるダンボール箱に重さに耐え得る詰め物をして、本器が十分保護されるように梱包してください。

2.3 構 成

本器の構成は、「表2-1 構成表」のとおりです。

表2-1 構成表

● 本 体	1
● 取扱説明書	1
● 附属品	
ボトムプレート.....	1
ショートプラグ.....	1

2.4 設 置

2.4 設 置

本器の許容温度範囲および許容湿度範囲は、下記のとおりです。

- 動作時：0～40℃、10～90%RH（ただし、結露なきこと）
- 保存時：-10～50℃、10～80%RH（ただし、結露なきこと）

設置に当たっては、この温度範囲および湿度範囲を満たし、ほこりや振動が少なく、直射日光が当たらない場所を選んでください。

本器の周囲にパルス性の雑音、強磁界、強電界等を発生する装置がありますと、誤動作の原因となることがあります。このような装置付近での使用は極力避けてください。

2.5 電 源

本器は、下記の電源条件で動作します。

- 専用電源 SA-915D1 および出力ケーブル（正負電源用）の組み合わせ。
- DC±15V 0.1A リプルノイズ1mVrms以下の直流安定化電源（スイッチング電源は不可）。

/// ご注意 ///

- 本器はDC±15Vで動作しますが、最良の雑音特性を得るためには、専用電源 SA-915D1 と組み合わせて使用することをお勧めします。
 - DC±16.5V以上の電圧を加えた場合または電源を逆接続した場合、本器は損傷しますので、十分ご注意ください。
-

3. 操作方法

3.1 概要

本器の正面パネルには、入力端子、出力端子および電源供給端子があり、背面パネルには本器にボトムプレートを取り付けるための取り付け穴があります。

3.2 正面・背面パネルの説明

「図3-3 正面・背面パネル図」をご参照ください。

① + INPUT

本器の正相入力端子で、SMAコネクタを採用しています。入力インピーダンスは 50Ω で、最大入力電圧は $\pm 2V$ です。これ以上の電圧を加えると、本器は破損します。

② - INPUT

本器の逆相入力端子で、SMAコネクタを採用しています。入力インピーダンスは 50Ω で、最大入力電圧は $\pm 2V$ です。これ以上の電圧を加えると、本器は破損します。

③ OUTPUT

本器の出力端子で、SMAコネクタを採用しています。出力インピーダンスは 50Ω で、最大出力電圧は $2V_{p-p}$ (50Ω 負荷時) です。

④ DC -15V

本器の負電源の入力端子です。この端子にはDC-15Vを供給します。

⑤ DC +15V

本器の正電源の入力端子です。この端子にはDC+15Vを供給します。

⑥ — GNDラグ

本器の電源のグラウンド端子です。この端子には0Vを接続します。

⑦ — ボトムプレート取り付け穴

本器に附属のボトムプレートを取り付けるときに使用します。出荷時には、ケース保護用に4本のプラスチックねじが取り付けられていますが、ボトムプレートを取り付ける場合は、このねじを取り外してから取り付けます。ボトムプレート取り付け穴のねじ径はM3です。取り付けの際は、金属製のねじ (M3 ねじ部長さ4mm なべ頭) を使用してください。

3.3 始 動

本器の電源端子に電圧を供給する前に、必ず使用する電源の電圧が $\pm 15V \pm 5\%$ になっているかどうかを確認します。

//// ご注意 ////

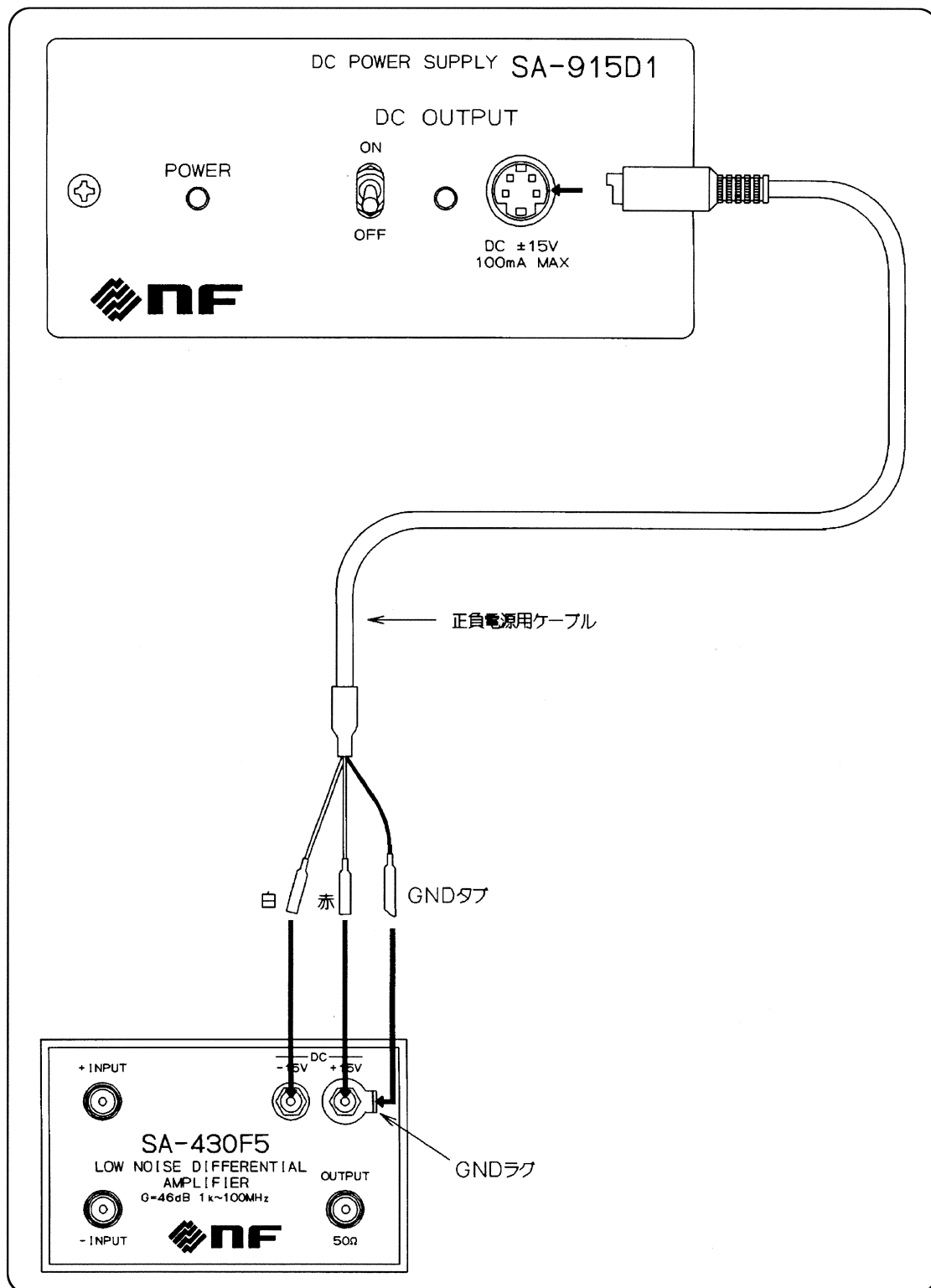
精度の高い測定を行う場合は、内部回路安定のために20分以上のウォームアップを行ってください。

3.3.1 専用電源 SA-915D1 との接続について

本器を専用電源 SA-915D1 と接続する場合は、正負電源用のケーブル（SA-915D1 に付属）を用いて接続します。本器の+15V端子に“赤”の線を、-15Vの端子に“白”の線を、そしてGNDラグには“GNDタブ”のついた線を接続します。このとき、SA-915D1 のSWはOFFにしてください（☐「図3-1 SA-915D1 との接続」、参照）。

//// ご注意 ////

本器は、赤リードと白リードを逆接続して電源を投入すると破損します。
本器にケーブルを接続した状態でケーブルに無理な力を加えないでください。本器の電源ピンは曲がりやすく、強い力が加えられると電源ピンが折れる場合があります。



+15V端子に“赤”、-15V端子に“白”、GNDラグに“GNDタブ”の線をまっすぐに接続します。

図3-1 SA-915D1との接続

3.3 始 動

3.3.2 SA-915D1 以外の電源との接続について

専用電源 SA-915D1 以外の電源を使用する場合は、「図 3-2 SA-915D1 以外の電源との接続」にしたがってケーブルを接続（はんだ付け）してください。

/// ご注意 ///

本器は、電源の逆接続または $\pm 16.5\text{V}$ 以上の電圧を供給すると破損します。

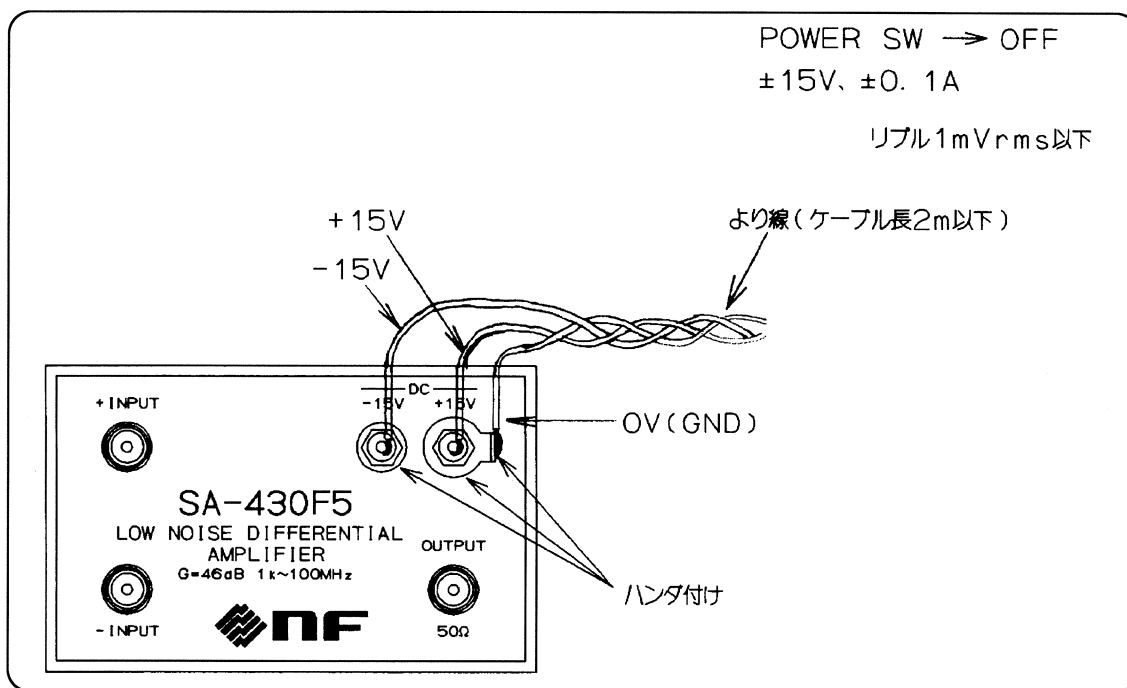


図 3-2 SA-915D1 以外の電源との接続

3.3.3 入力の接続および設置について

本器の低雑音特性をいかにするためには、入力のシールド、接続が重要です。おおむね下記の規則にしたがって入力の接続および設置を行います。

1. 本器をできる限りセンサまたは信号源の近くに設置し、入力の接続ケーブルが可能な限り短くなるようにします。
2. コネクタには SMA コネクタ、接続ケーブルにはセミリジッドケーブルまたは二芯同軸ケーブルを使用し、外乱や雑音の入力への混入を防ぎます。
3. 本器を取り付ける場所が金属等の導電体である場合は、附属のボトムプレートを用いて取り付け、不要なループ電流による雑音の混入を防ぎます。

4. 近くに直流電源等トランスを内蔵した機器がある場合は、センサおよび本器をできるだけ離して設置します。また、入力ケーブルと出力ケーブルもできるだけ離してください。
5. なるべく振動の少ない場所に設置します。微小信号を検出する場合、ケーブルが振動することにより発生するマイクロフォニックノイズの影響を受ける場合があります。

3.3.4 差動接続時のご注意

接続には、なるべくセミリジッドケーブルまたは同軸ケーブルを用います。差動で接続する場合は、増幅器に加えられる同相電圧が許容値を超えていないかどうか確認してから接続してください。接続ケーブルは可能な限り短くします。不必要に長いケーブルを使用した場合、ケーブルがアンテナとなり、外来雑音の影響を受けたり、出力側から帰還により発振したり、不安定になったりします。また、信号源によっては、完全差動（フローティング）で使うよりも、信号源側で片側を接地したほうが良い結果が得られる場合もあります。いずれにしても、増幅器の性能を最大限に発揮させるためには、多少のカットアンドトライが必要です。

3.3.5 片線接地入力での使用について

本器は差動入力の増幅器ですが、入力の片側を付属のショートプラグで短絡することにより、片線接地入力の増幅器として使用可能です。+ INPUTを短絡すると反転増幅器になり、- INPUTを短絡すると非反転増幅器になります。ショートプラグはできる限り付属のものを使用してください。シールドの不完全なものまたは、ループの面積の大きいショートプラグはアンテナとして動作し、外来雑音の影響を受ける場合があります。付属のショートプラグの型名はHRM-504（ヒロセ電機製）で、市販されています。

3.3 始 動

3.3.6 出力接続について

本器の出力は必ず50Ωで終端してご使用ください。また、接続ケーブルは特性インピーダンス50Ωの同軸ケーブルを用います。本器の出力インピーダンスは50Ωで、利得は50Ω負荷で終端したときに46dB（200倍）です。本器の出力を50Ωで終端せずに使用する場合は、規定の性能（例えば、周波数特性）は得られません。

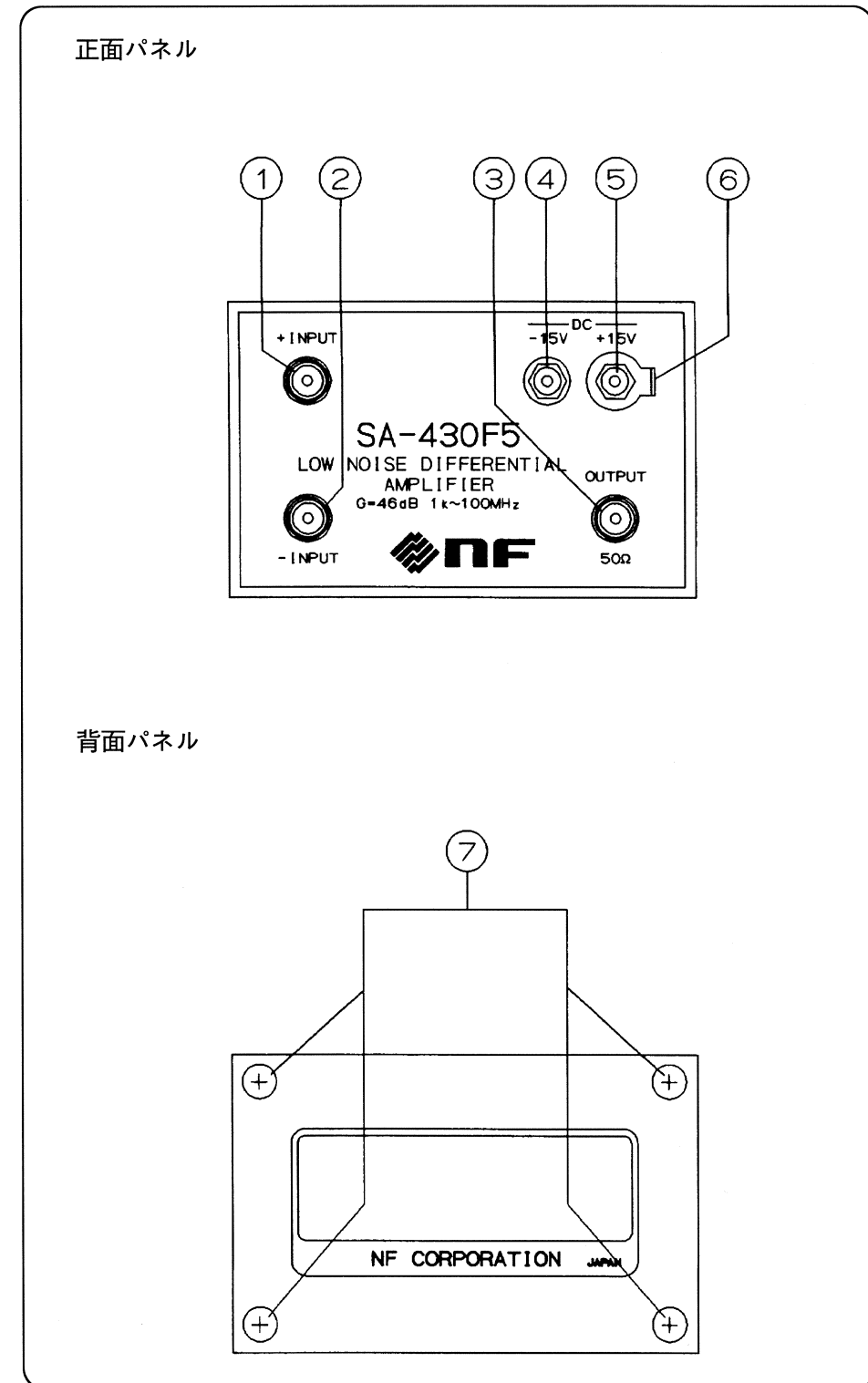


図3-3 正面・背面パネル図

4. 動作原理

4.1 ブロック図

「図4-1 ブロックダイアグラム」をご参照ください。A1およびA2の信号増幅部から構成されています。

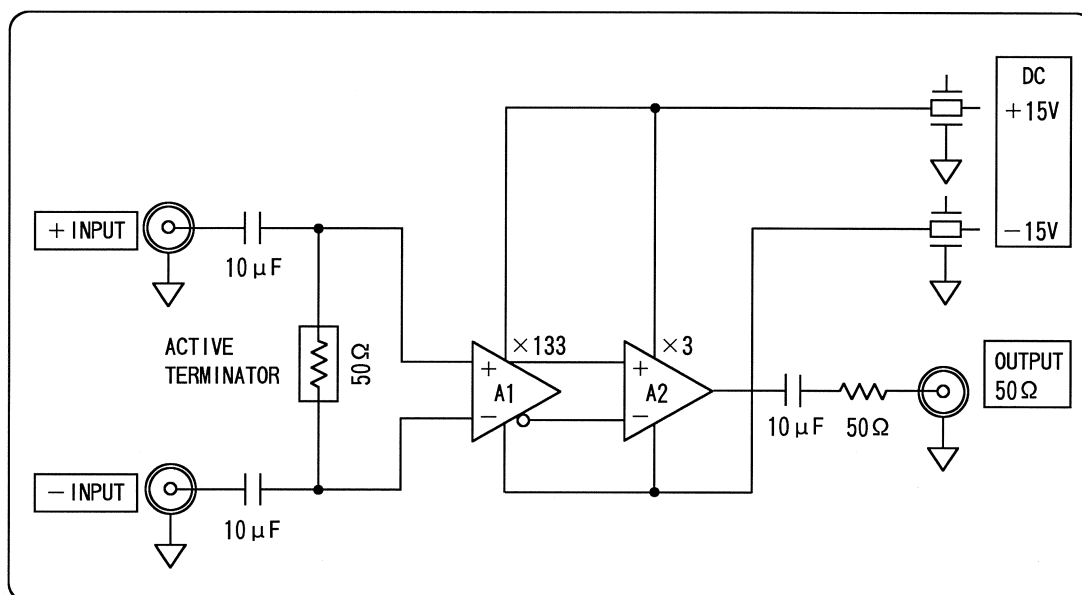


図4-1 ブロックダイアグラム

4.2 入力アンプ

A1は、並列接続されたバイポーラ素子を入力段に用いた利得133倍の差動増幅器です。雑音特性の悪化なしに入力を50Ωに整合させるために、負帰還技術を用いた能動終端器を用いています（入力に通常の50Ωの固定抵抗器を用いた場合は、雑音ゼロの理想増幅器を用いても雑音指数を3dB以下にすることはできません）。また、温度補償回路により利得安定度 $\pm 100\text{ppm}/^\circ\text{C}$ typを実現しています。

4.3 出力アンプ

A2は、高速オペアンプを用いた利得3倍の非反転増幅器です。上記A1アンプの出力を増幅し、出力インピーダンスを50Ωに変換します。

5. 保 守

5.1 概 要

機器を最良に保つためには、保守が必要です。保守には通常、下記の4段階があります。

1. 動作点検

まず機器が正しく動作し、定格を満足しているかどうかをチェックします。

2. 調整および校正

動作が正しくない場合には、指定された箇所を調整または校正します。

3. 故障箇所発見

それでも改善されない場合は、不良原因、故障箇所を調べます。

4. 故障修理

本取扱説明書では、容易に行える動作点検のみを記しています。

より高度の点検、校正、修理につきましては当社営業部までお問い合わせください。

動作点検には、下記の測定器が必要です。

- ネットワークアナライザ
周波数帯域100Hz～200MHz以上
50Ω入出力インピーダンス
- オシロスコープ
100MHz以上
- 広帯域発振器
1kHz～10MHz
- デジタルマルチメータ
4 $\frac{1}{2}$ 桁以上
- 直流電源
±15V 0.1A

5.2 動作点検

5.2.1 正相入力動作点検

「図5-1 正相入力動作確認接続図」のように接続します。本器の入出力には、SMA-BNC変換器を用いてBNC-BNCケーブルで接続すると便利です。

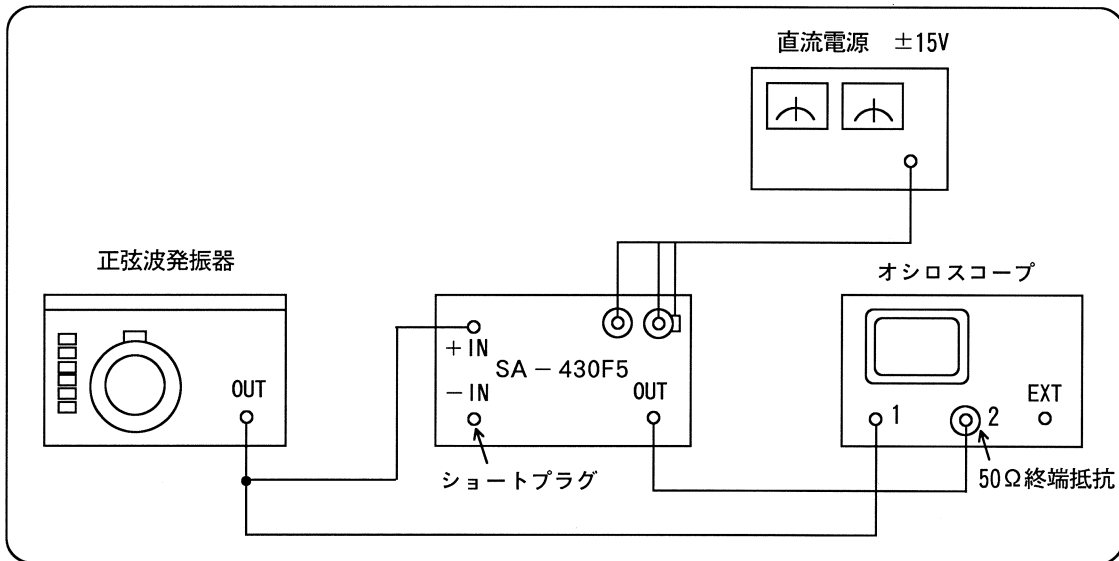


図5-1 正相入力動作確認接続図

● 発振器設定

周波数 = 100kHz

出力電圧 = $\pm 5\text{mV} = 3.54\text{mVrms}$ ($R_L = 50\Omega$)

正弦波

オシロスコープ上に、「図5-2 正相入出力波形」のような波形が現れれば正常です。

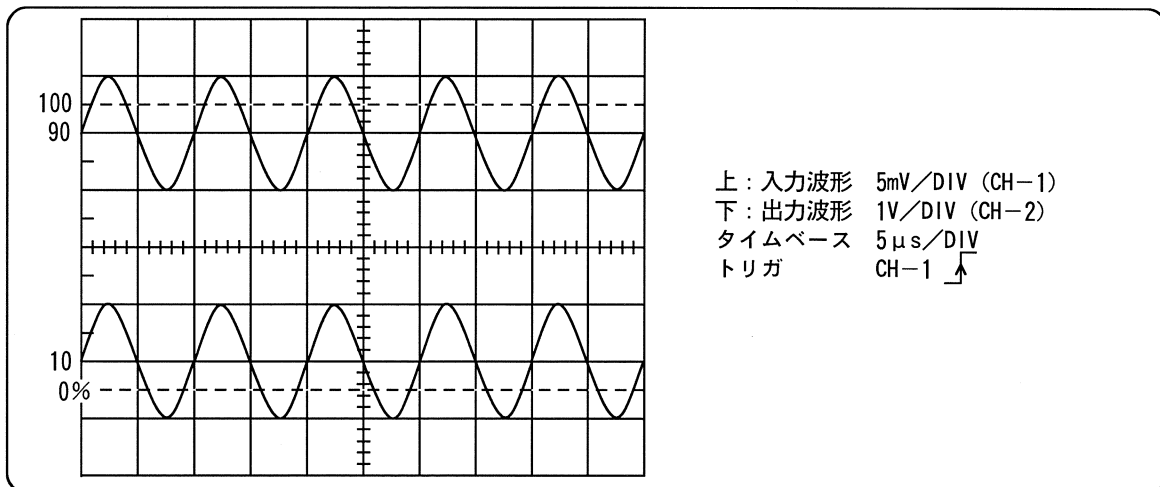


図5-2 正相入出力波形

5.2.2 逆相入力の動作点検

「図5-3 逆相入力動作確認接続図」のように接続します。本器の入出力には、SMA-BNC変換器を用いてBNC-BNCケーブルで接続すると便利です。

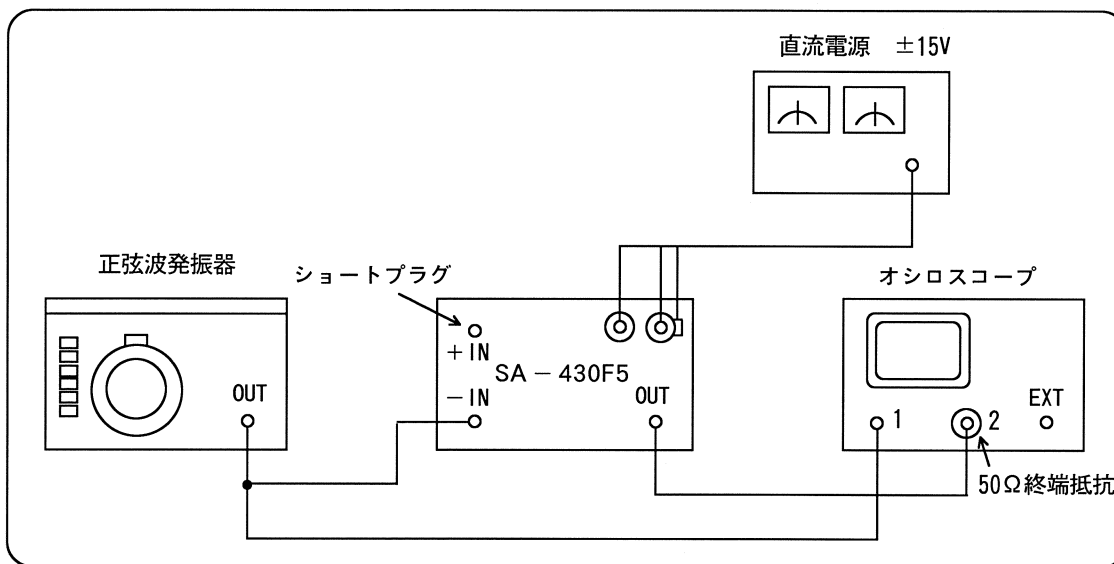


図5-3 逆相入力動作確認接続図

● 発振器設定

周波数 = 100kHz

出力電圧 = $\pm 5\text{mV} = 3.54\text{mV}_{\text{rms}}$ ($R_L = 50\Omega$)

正弦波

オシロスコープ上に、「図5-4 逆相入出力波形」のような波形が現れれば正常です。

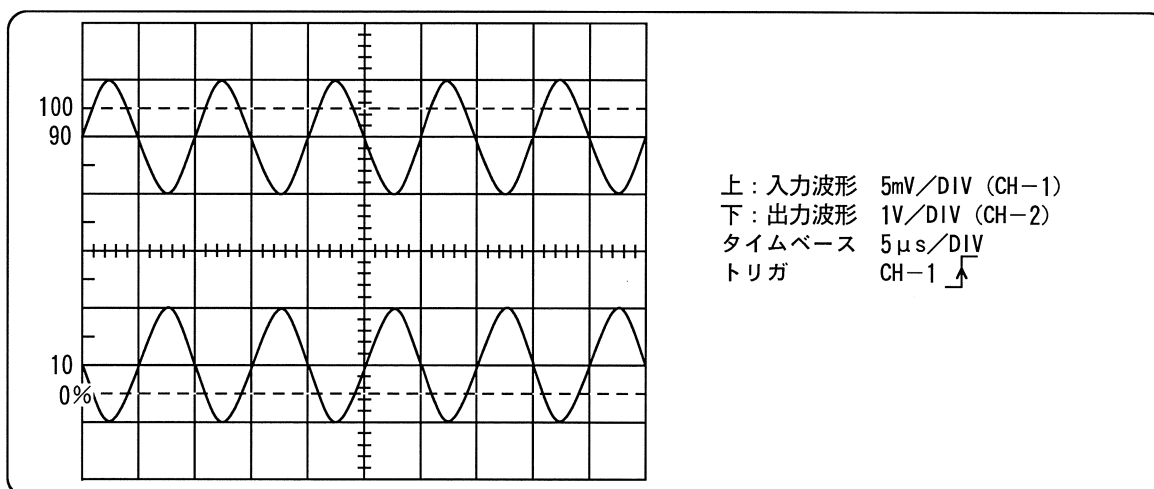


図5-4 逆相入出力波形

5.2 動作点検

5.2.3 差動入力点検

「図5-5 差動入力動作確認接続図」のように接続します。本器の入出力には、SMA-BNC変換器を用いてBNC-BNCケーブルで接続すると便利です。

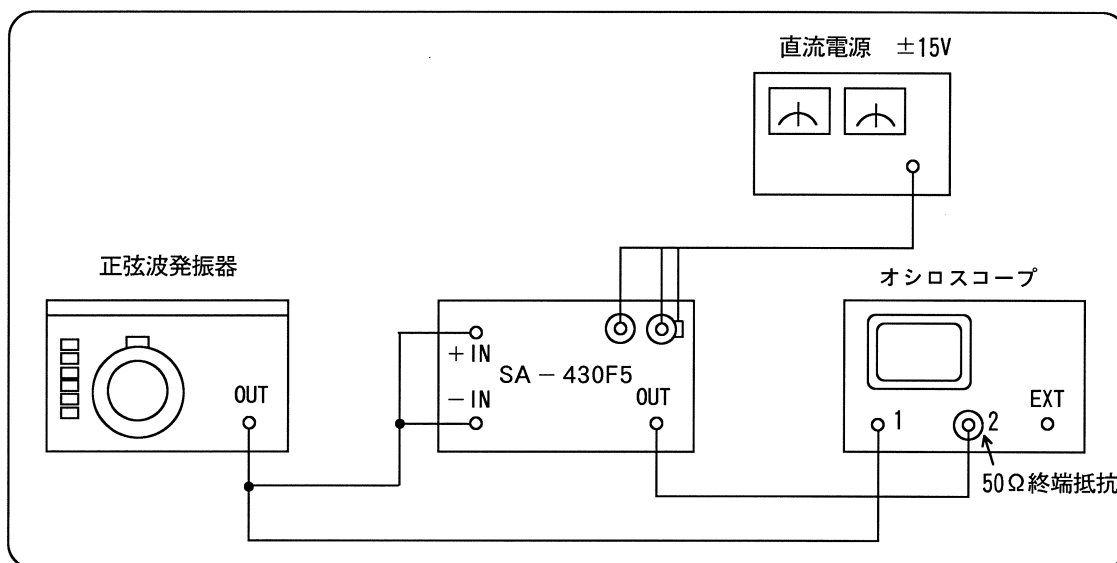


図5-5 差動入力動作確認接続図

● 発振器設定

周波数 = 100kHz

出力電圧 = $\pm 1V = 707mV_{rms}$

正弦波

オシロスコープ上に、「図5-6 CMRRチェック」のような波形が現れれば正常です。コモンモード電圧は、差動アンプのCMRRによって抑圧を受け、出力にはほとんど現れません。定量的な測定はノイズを除いて基本波のみ分析できる周波数特性分析器が必要です。目安としてオシロスコープ上の同期成分が $\pm 3mV$ 以下ならCMRRは良好です。

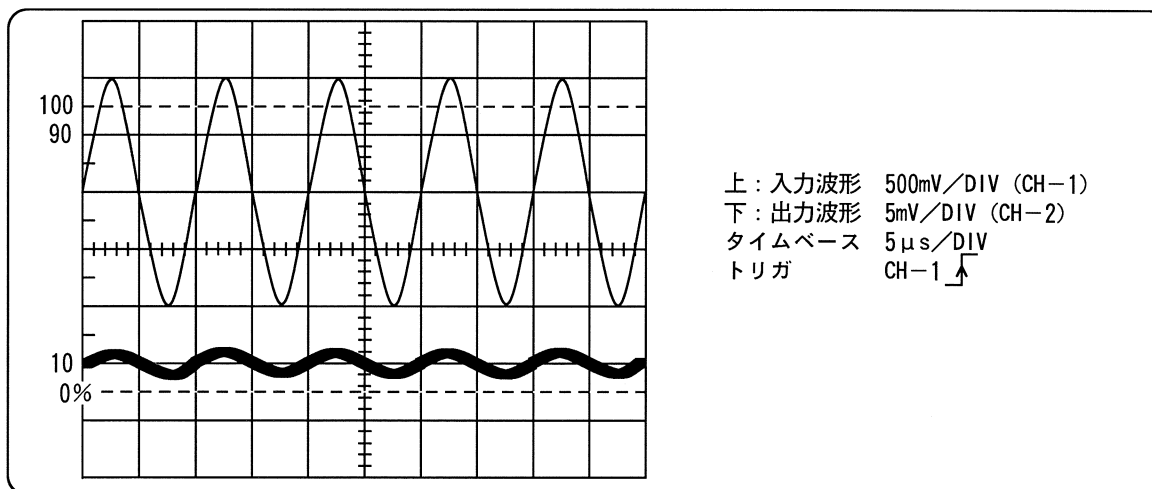


図5-6 CMRRチェック

5.2.4 利得および周波数特性の確認

「図5-7 利得および周波数特性確認接続図」のように接続します。ネットワークアナライザは、あらかじめ校正を行い、接続ケーブルや測定器の誤差をキャンセルしておきます。1MHzでの利得が 46 ± 0.5 dB、高域のカットオフ周波数が100MHz以上、低域のカットオフ周波数が1kHz以下なら正常です（ネットワークアナライザの出力レベルは 50Ω 負荷に対し、 $2\text{mVp-p} \sim 5\text{mVp-p}$ 程度に設定します）。

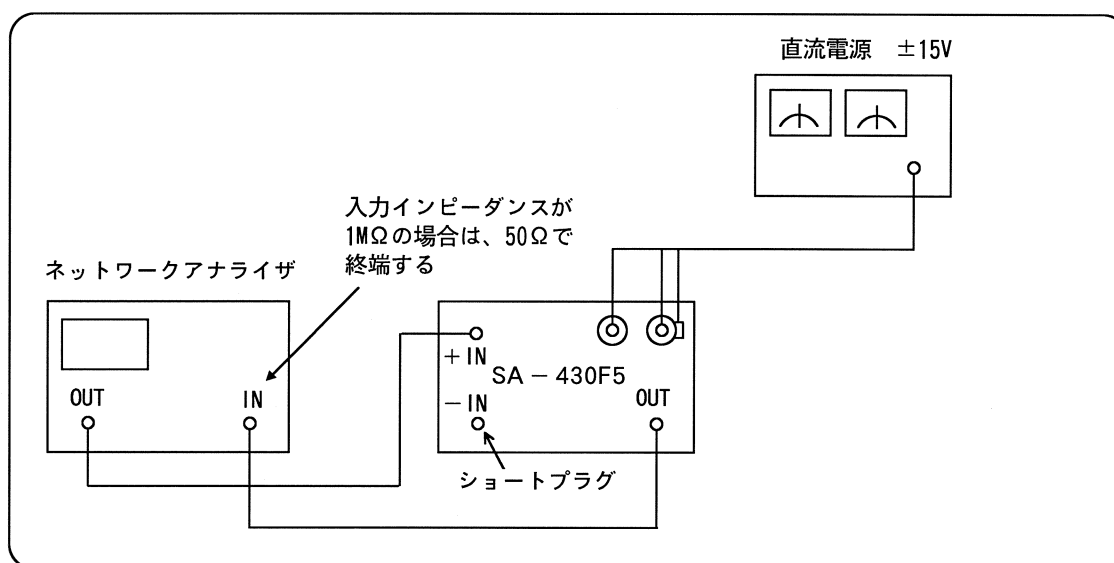


図5-7 利得および周波数特性確認接続図

5.2.5 消費電流のチェック

本器の両入力をショートプラグ等で短絡したとき、消費電流が $+65\text{mA}$ 、 -45mA 以下なら本器は正常です。

6. 標準データ

6.1 標準データについて

本器の代表的な性能について、標準的なデータを参考として記載いたします。当社は、品質管理の手段の一つとして、常にこの標準データに対して、性能のばらつきを小さくするように努力しております。

このデータは、製品の性能を個々に測定しますと、平均的にこの値を示すというもので、場合によっては、本器の性能がこのデータに達していないこともあります。が、厳重な試験の結果、定格値を満足していることを確認して出荷しておりますのでご了承ください。

6.2 標準データ

- 図6-1 入力換算雑音電圧密度 100Hz~1MHz
- 図6-2 雑音指数周波数特性 10MHz~110MHz
- 図6-3 電圧利得周波数特性 100Hz~200MHz
- 図6-4 電圧利得偏差周波数特性 100kHz~200MHz
- 図6-5 入力VSWR周波数特性 100kHz~500MHz
- 図6-6 出力VSWR周波数特性 100kHz~500MHz
- 図6-7 逆方向伝達利得周波数特性 1MHz~500MHz
- 図6-8 同相入力電圧除去比周波数特性 1kHz~100MHz

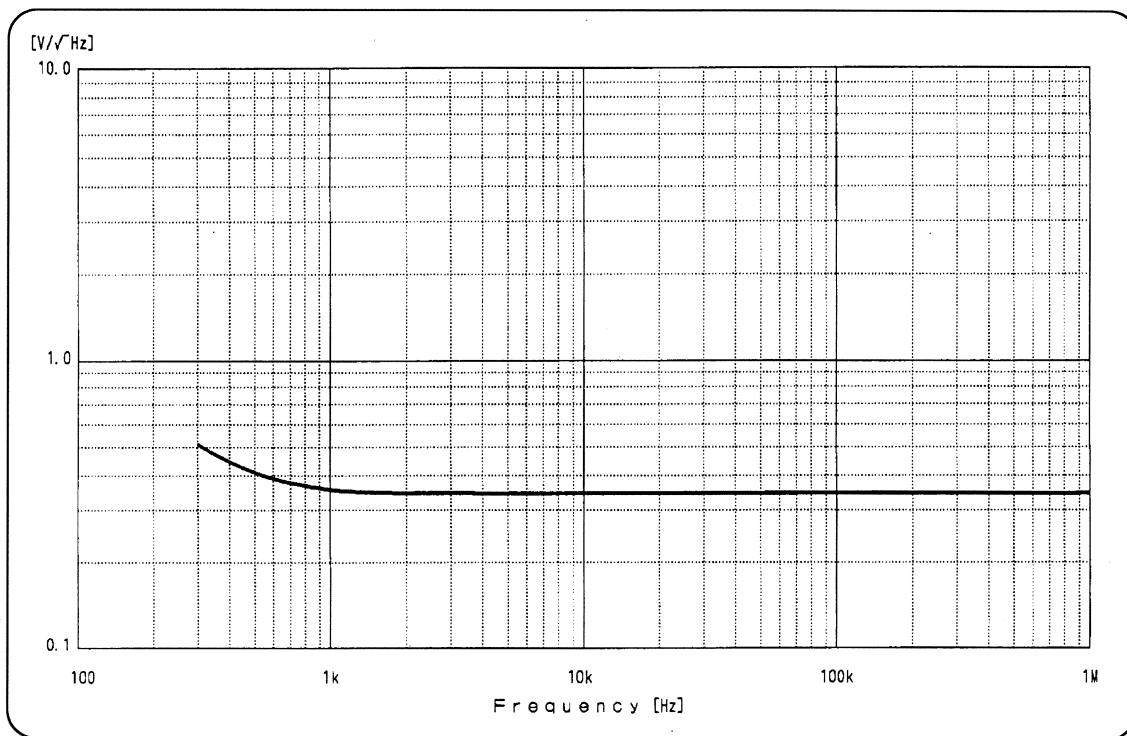


図 6 - 1 入力換算雑音電圧密度 100Hz~1MHz

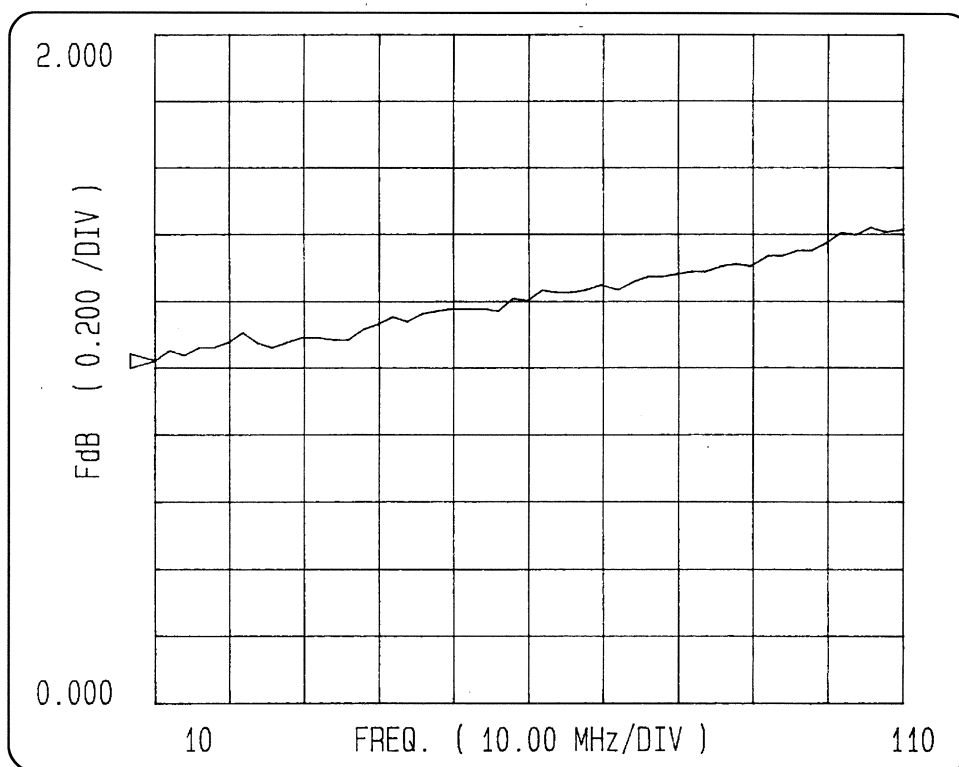


図 6 - 2 雑音指数周波数特性 10MHz~110MHz (50Ω系)

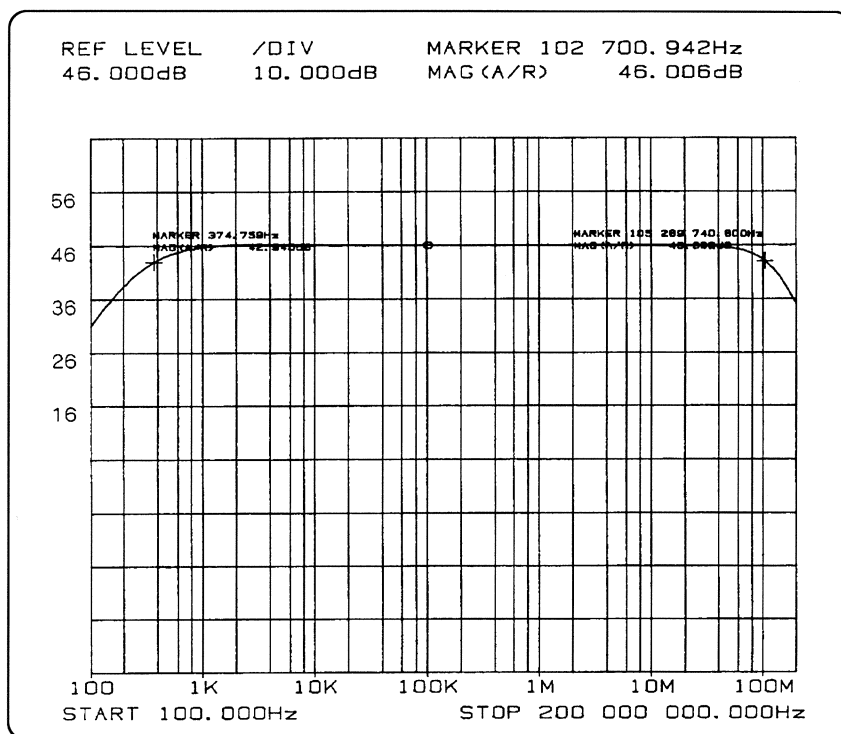


図 6 - 3 電圧利得周波数特性 100Hz~200MHz

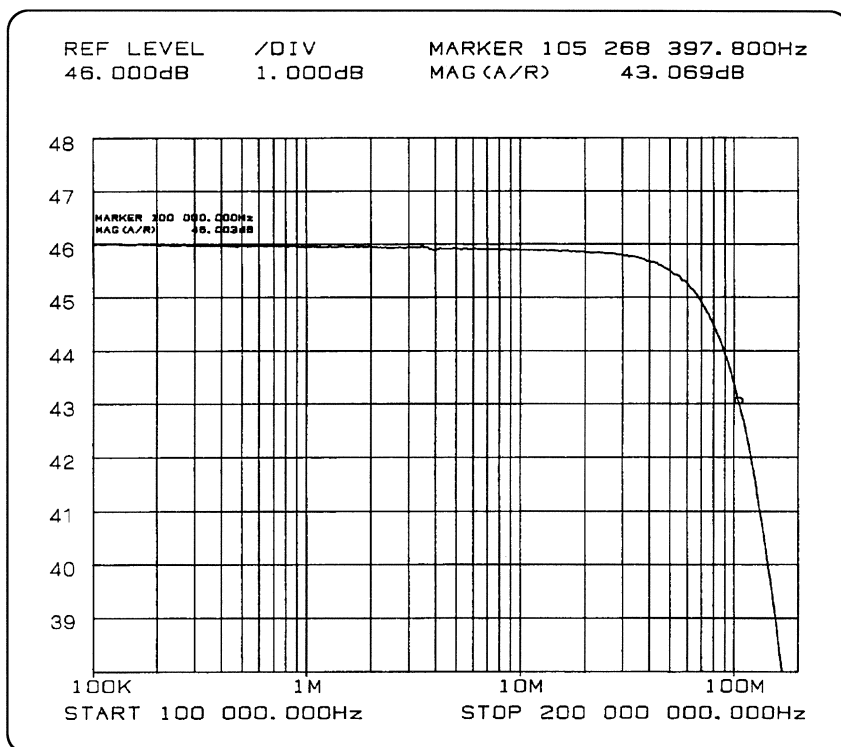


図 6 - 4 電圧利得偏差周波数特性 100kHz~200MHz

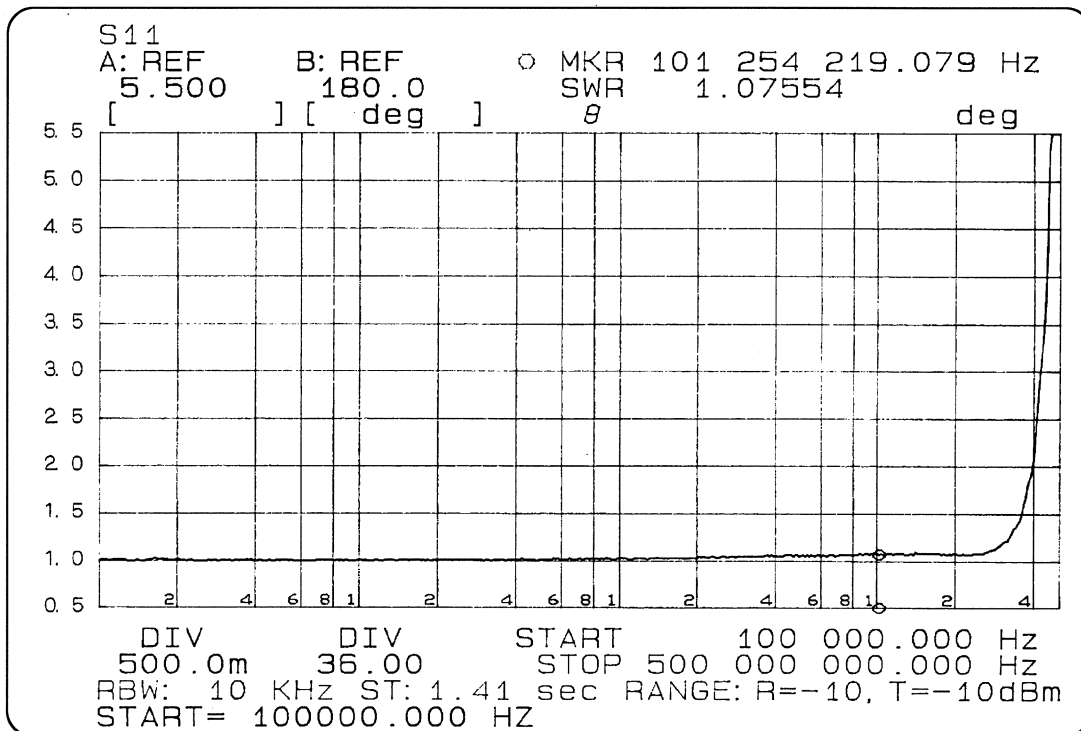


図6-5 入力VSWR周波数特性 100kHz~500MHz

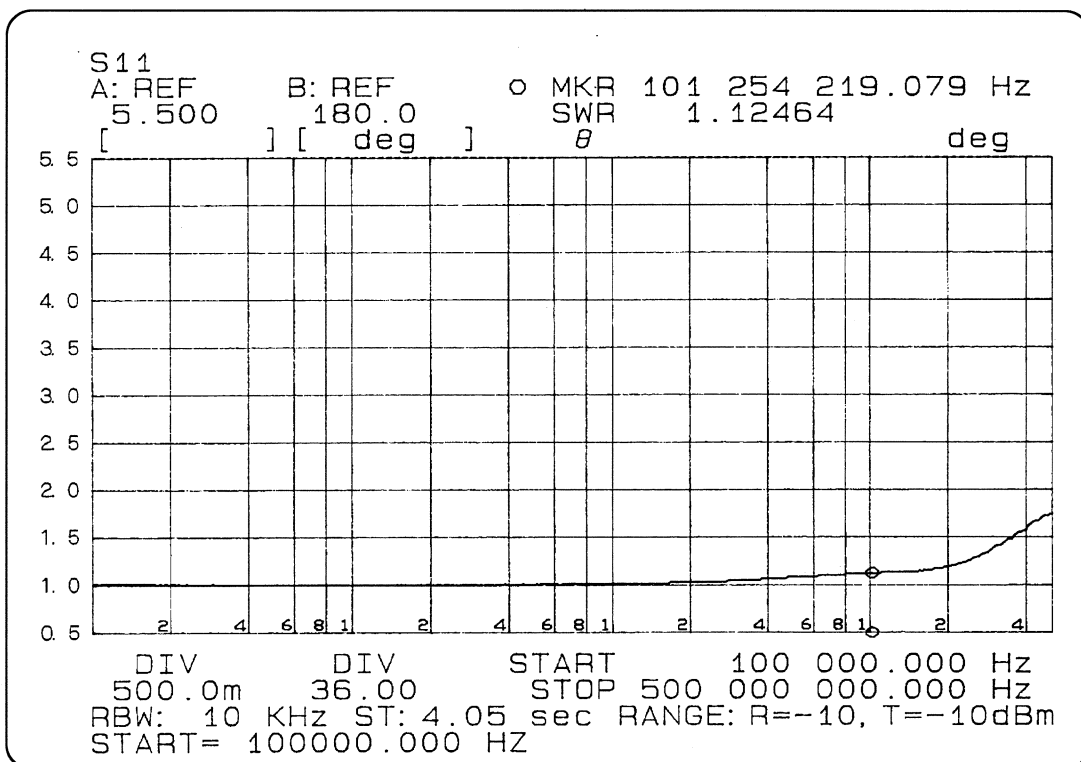


図6-6 出力VSWR周波数特性 100kHz~500MHz

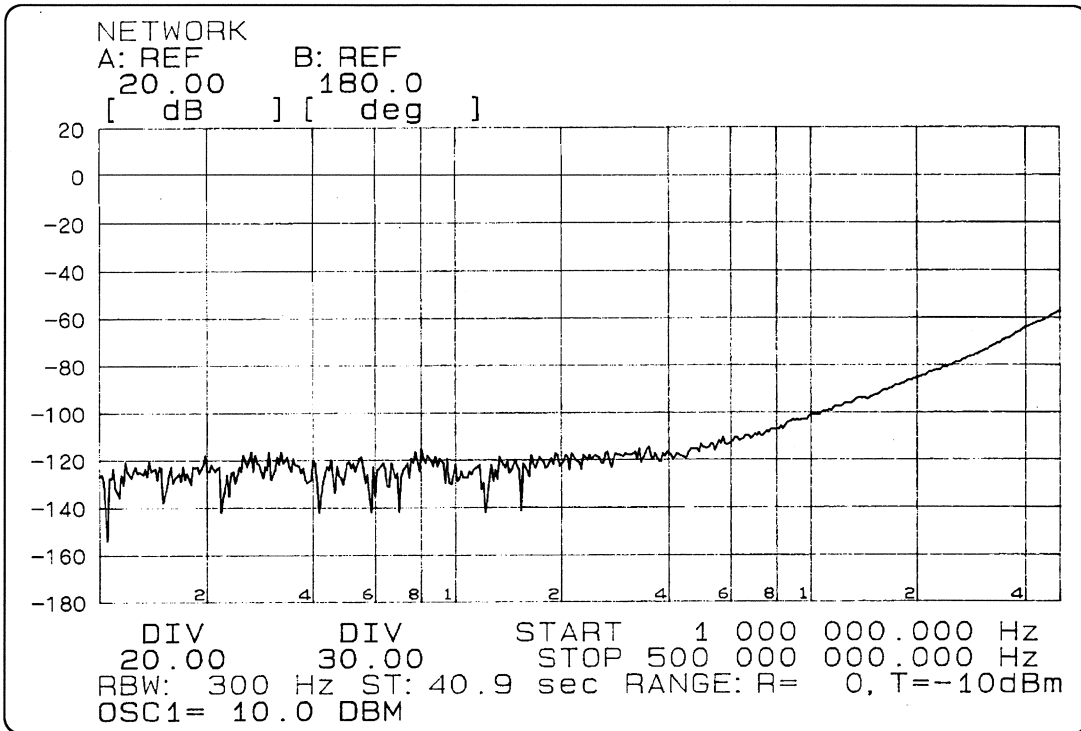


図 6 - 7 逆方向伝達利得周波数特性 1MHz~500MHz

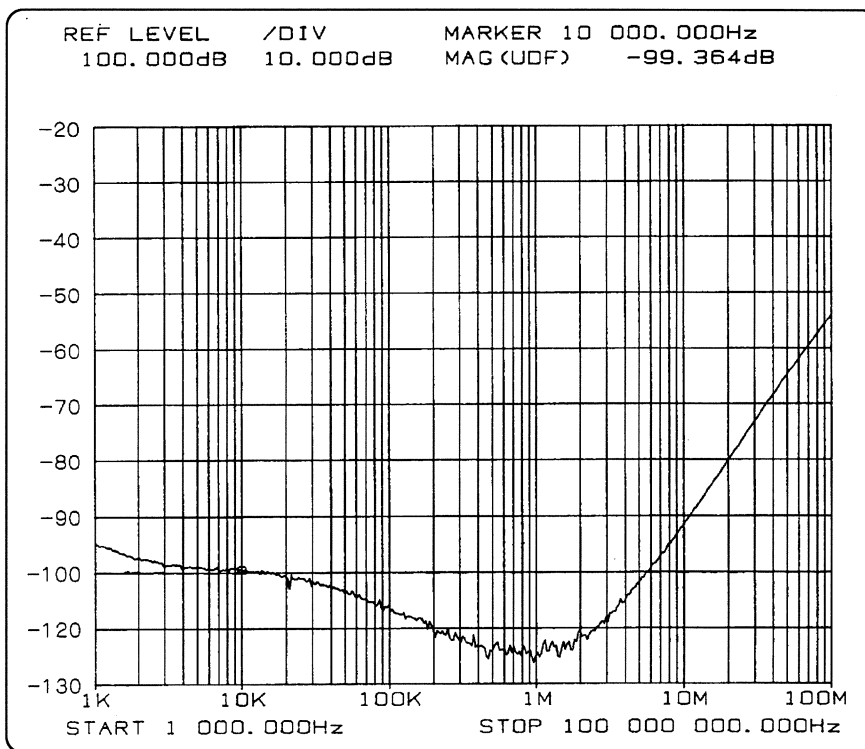


図 6 - 8 同相入力電圧除去比周波数特性 1kHz~100MHz

SA - 430F5 取扱説明書

落丁、乱丁はおとりかえします。

株式会社エヌエフ回路設計ブロック

〒223 横浜市港北区綱島東6-3-20

電話 (045) 545-8111

© Copyright 2002, **NF Corporation**

